

グリムの森イルミネーション

～手づくりの輝く世界～



ボランティアによる準備風景

第6回目を数えた「グリムの森イルミネーション」は、グリムの森近隣住民の有志が、入出が鈍る冬季の活性化を目的として、平成21年に「下野市ウインター活性化推進協議会」を発足させて活動をスタートさせました。この協議会は、役員は代表と広報担当のみで、ボランティアの参加と協力による運営となっています。

イルミネーションのデザインは、那須烏山市在住のグラフィックデザイナーに依頼し、グリム童話をモチーフにしたデザインで統一されています。図案が描かれた厚さ5mmのベニヤ板に穴を開け、LED電球をつけたものが那須烏山市からトラックで運ばれてきます。組み立て、電気配線、通路などを飾るイルミネーションの花の作成など、一つひとつが地域ボランティアによる手作業によって仕上げられていきます。

毎年少しずつバージョンアップしているイルミネーションの制作とイベントの開催には、例年300万円程度の費用がかかっています。その資金は地域のボランティアが、1口5000円で自らも出資したり、東奔西走したりしながら集めています。

また、イルミネーションを展示する場所やトイレ・電気などは、グリムの森・館を運営する財団法人グリムの里いしばしが協力しています。

年々豪華になっていくイルミネーションは、設置や後片付けも大変ですが、何より毎年増えていく資材置き場に困り、下野市に要請して平成24年に専用倉庫を建ててもらいました。敷地内に設置された倉庫はグリムの森にふさわしい外観となっています。

イルミネーションの点灯期間（毎年11月下旬～1月3日）には、コンサート、こどもクリスマスのつどい、出会いのつどい（グリコン）など各種イベントも開催しています。平成25年3月には下野市ブランドに認定されました。お話を伺った広報の石田節男さんから「地域住民の参加による、手作りのイルミネーションとして関東一を目指している」という力強い言葉がありました。

冬場の地域活性化を目指して、オリジナルの企画、運営をボランティアや協賛する方々の手づくりで行っています。毎年工夫を凝らした演出と、人々の熱い想いが重なりあい、厳しい冬の時期にぬくもりと光が織りなす見事なファンタジーの世界を提供しています。

第14条（コミュニティ組織の責務及び支援） 2 コミュニティ組織は、まちづくりの主体としての役割を認識し、協働のまちづくりへの理解及び協力を努めるものとする。

3 市は、コミュニティ組織による活動について、公益性及び公平性に配慮して、その自主性及び自立性を損なうことのないよう、支援するものとする。



つながッテルね！
条例14条